

昨年、福岡市では「医療的ケア児のこども部会」が設置され、提言書がまとめられて施策への反映が期待されます。そして今年には「医療的ケア児連絡会」が組織される

ます。自治体の「努力義務」として課せられています。い、何らかの施策反映や取り組みが、地方自治体の「努力義務」として課せられています。

新しい年を迎えました。今年も小さなたねも、変化の年です。母体の「にのさかクリニック」の横に、小さなたねの新拠点が生じます。時が経たず日々成長していくように、この「地域」に時が経た、たね、が多くの人たちに見守られ成長し、いのちの共感を生み出していく場となることを願っています。今後ともご協力をよろしくお願い致します。



小さなたねに「歌姫、登場!!」

を分かつ合点によって、彼(女)たちの居場所が増え、安心して地域で暮らしていくことに繋がるのだと思います。私たちはこれまでもそうであったように、シンプルに「何が必要なのか」を考えて、それを実行することが最善だと思っています。

予定で、医療や福祉の情報共有とともに、一般の学校や幼稚園・保育園などの関係者も交えて、そうした子どもたちや家族の生活の現状の把握と困り事を確認し合う場が設置される予定ですが、それらが制度やサービスへ反映されるには、時間がかかるものです。しかし、社会資源として持続可能な事業となるのに必要な作業と切り替え、私も積極的に関わりますようにしています。

シンプル・イズ・ベスト

所長 水野 英尚



小さなたねの物語が描かれたスタンドグラス (ガラスアート TAKAMI 製作・寄贈)

たねスタッフのつぶやき

遅い朝ごはんを食べた後、ごろんと横になり、ぼんやりテレビを観ていると、二〇一六年に亡くなった永六輔さんの特集をやっていた。ご存じ、坂本九の「上を向いて歩こう」の作詞をされた方です。永六輔さんの残された言葉が画面に映し出されていて、その中のひとつの語録にとて惹かれ、すぐに広告の裏に書き写した。

「生きていくという事は、誰かに借りをつくっていること。生きてゆくという事は、その借りを返してゆくこと」

その言葉を目にした時、とても感動し、生きてゆく意味のひとつとして、とても納得できるものだった。

いろんな方達にお世話になってる私。私の「借り」はどれくらい借りて、どれくらい返せているのだろうか。いやいや、生きている間はずっと返せそうにないなあ……。

なーんて殊勝なことを考えてたら、また眠りに落ちてしまった。


牛嶋めぐみ (看護師)

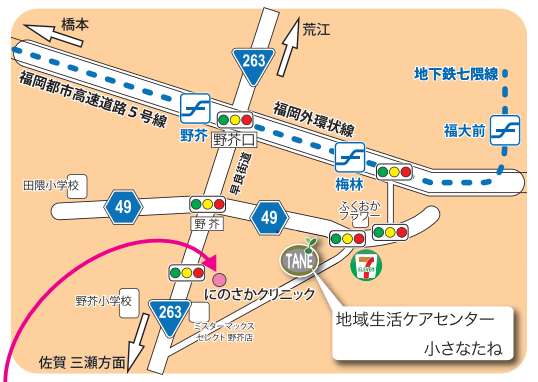


医療法人にのさかクリニック 地域生活ケアセンター 小さなたね

〒814-0172
福岡市早良区梅林 6-23-3
電話 092-874-3051
FAX 092-874-3052
E-mail: chisanatane@tune.ocn.ne.jp



★2月に移転します。
新住所：早良区野芥 4-19-31 (にのさかクリニックの横です) 電話 092-834-8090



「非言語」の「言語」

唐突ですが、「ノンバーバル・コミュニケーション」というものを存じてでしょうか。これは、言語的でない（＝ノンバーバル）コミュニケーションですから、つまり「非言語」コミュニケーションのことです。

普段の生活の中で「言語」を多用している私たちにとって、「非言語」というと何か特別な手法のように考えがちですが、実に多くのコミュニケーションに「ノンバーバル・コミュニケーション」が作用しています。「目は口ほどに物を言う」というように、その人の表情や仕草や着ている服などで、相手の受けとめる内容が9割は決まるとも言われます。

では、私たちが日常に行っているコミュニケーションの多くで、そこで飛び交う「言語」の多くが右から左にすり抜けて、相手の仕草や表情ばかりが記憶に残り受けとめられるならば、もはや「言語」はますます軽んじられるようになり、薄っぺらな「葉っぱ」のように、意味をなさない

単語が空中をフラフラと漂うことになってしまつてしまうでしょう。しかし、「言語」本来の力は、そうではありません。仮に「言語」無しでのコミュニケーションは、私たちが不安にさせます。要求が何であるのか、思いが伝わるのかなど、途端に不自由さを感じることでしょう。やはり、「コミュニケーション」は、「言語」というものが重要な役割を担っていて、互いの関係を深め、より豊かにするため、「非言語」と「言語」、双方が無くてはならない「コミュニケーションツール」と言えます。

一方で、重い障がいのある方にとって、「言語」による発信は非常に困難なため、諦めてしまう傾向が多くあります。ここでは「ノンバーバル・コミュニケーション」が発展していて、目の動き、口の動き、身体のゆるみ具合などから何かが思いを聴き取ろうと、全身を観察していきます。親や熟練した支援者たちは、次第に相手の思いが分かってくると言います。

大切なことは、「非言語」だけでなく、「言語」をいかにして用いるかということとです。つまり、そうした「非言語」（主観的）なやり取りを、いかに「言語」（客観的）に

おひさしぶりのスタコラです。話のタネが思いつかないので、気の向くままに近況を書きます。

最近、はじめて Hotto Motto の「ドラミちゃん弁当（カレー）」を食べました。すごく甘くてなつかしい味でした（カレーの王子さま風）。



2018年は、生まれてはじめてプロ野球にはまりました（ルールの理解は若干怪しい）。本多選手の引退試合、柳田選手の逆転ホームラン、日本シリーズ優勝などなど、貴重な場面を見届けました。ちなみに推しはグラシアル選手です。



年明け早々、地元の新聞で SIXPAD（EMSの腹筋トレーニング用品）の社長が同郷（五島市）と知り驚きました。各メディアで地元が紹介されることが増えてうれしいです。

2019年の抱負は「体力増進」。運動はさっぱり（体育2）なので何をしたらいいかわかりませんが、頑張ります。

小さなたねに入職してもうすぐ丸4年。業務の特性上、利用者さんやご家族のみなさんとお会いする機会は少なくなりましたが、こちら変わりありません。

本年もよろしくお祈りします。



オチはありません



才津 知尋（相談支援専門員）



2018

クリスマス会

小さなたね恒例のクリスマス会が、賑やかに開催されました。
 今回は「餅つき大会」を行わずに、室内でのクリスマス会でしたが、出演者一人一人やボランティアさんにより、熱気あふれる楽しいひと時となりました。





『さよなら自己責任』

生きづらさの処方箋』

カリスマ予備校講師の著者は、今日多くの人を感じる「生きづらさ」の12の問いに答えます。もっと「いい加減」さが必要ではと。それは相手を責める言葉ではなく、“goodな加減(いい加減)”が求められているのだと。

西 きょうじ 著
(新潮新書/760円+税)



引っ越す
ってよ



TANE 移転のお知らせ

今年2月、「地域生活ケアセンター小さなたね」は母体である「にのさかクリニック」の横に移転いたします。

今後は、クリニック隣接という形で、これまで以上にドクターやナースとの連携が強化できます。利用される方々には、安心して利用ができる環境となりますので、これからも、どうぞよろしくお願いいたします。



新住所

〒814-0171
福岡市早良区野芥4丁目19-31
地域生活ケアセンター 小さなたね
電話 092-834-8090



2011年開所当時の外観

していくことができるか、という課題です。

また、「非言語」でのやり取りは、受け取り手の考えや価値基準が作用するものです。受け取り手を複数にして共有できるようにすれば、そこから「共通言語」を生み出すことができるのではないかと思います。個々の一部の関係から、広がりのある「共通言語」を獲得していくことができれば、重い障がいのある彼(女)たちが、実に多くの「コミュニケーション」を求めており、皆と同じように出会いや繋がりを楽しんでいるかを知ることができるとはならないでしょう。

やがて、彼(女)たちが地域で暮らしを始めていくとき、「何を考えているのか分からない」「言葉が理解できない」などと不安の声があったとしても、重い障がいのある彼(女)たちの物語りを言語化して、そのギャップを埋めていくことを続けていけば、獲得した「共通言語」は次第に広がりを見せてくれることと思えます。



「どう、楽しんでる？」

視覚に障がいのある人に点字が、聴覚に障がいがある人には手話が、さらに、どちらにも障がいがあれば指文字という「言語」が生み出され、「コミュニケーション」が開かれていったように、「非言語」だけでない、自分たちの思いを伝える「言語」の誕生はきつとあるはずです。今後、テクノロジーの進化もそれをサポートしてくれるでしょう。

しかし、何より大切なことは、「非言語」と「言語」の「中間」という、人と人との「間」の中に流れる共感の言語化が、思いやりと繋がりのある「コミュニケーション」を創り出すのだと思います。SNSの普及によって、どこか失われつつあるものが、ここで新たな発見と再構築がなされていくなら、殺伐としている現代社会の中であって、彼(女)たちの存在と取り組みが、人々の関係性の回復と、温かな繋がりをもたらしてくれることでしょう。